

市政の動き

12月定例報告

市長総括説明から

11月25日、平成22年第5回市議会定例会が開会しました。

「生物多様性条約COP10」への参加、「第4回コウノトリ未来・国際かいぎ」の報告をした後、当面する市政の課題ならびに提出議案の主なものについて、説明しました。その概要をお知らせします。

安全に安心して暮らせるまち

○円山川緊急治水対策事業

KTR円山川橋梁架け替え工事や鳥居橋の架け替え、中郷築堤などは来年3月完成に向けて進められています。

日高中流部・上流部や城崎地域の無堤防地区の解消と中郷区遊水地の整備などは、今年度策定予定の河川整備計画に位置付けられる予定です。

○蓼川堰改修

蓼川堰は、老朽化し、また治水上の課題もあります。

そこで、地元関係者説明会や工事着手のための申請業務

を行い、来年秋から工事着手する予定です。

○稲葉川土地区画整理事業

稲葉川土地区画整理事業は、10月20日に起工式が行われました。これにより、平成16年台風23号災害復旧に関わる国、県の河川改修事業が本格実施となります。

○特定健康診査に係る自己負担額の無料化

特定健康診査は、医療保険者に義務付けられた生活習慣病の健診ですが、受診率は低迷しています。

受診は受診者の利益になるのはもちろん、医療費の抑制による国民健康保険全体の利益につながるため、来年度から自己負担額を無料にし、受診率の向上を図ります。

○ドクターカーの運行開始

12月5日にドクターカーの運行開始式が行われます。運行範囲は但馬管内とし、ドクターヘリを補完するものとして、午前8時30分から日没30分前までの間、ドクターヘリが運航できない場合に動きます。

人と自然が共生するまち

ラムサール条約湿地登録

9月30日、国から条約湿地の国際基準を満たす国内の潜在候補地172カ所が発表され、コウノトリの野生復帰を支える湿地として「円山川下流域および周辺水田」が候補地に挙げられました。

持続可能な「力」を高めるまち

○山陰海岸ジオパークの今後の推進

ギリシャ時間の10月3日、現地での会議で山陰海岸ジオパークが世界ジオパークへ認定されました。

今後は、一層PRに努め、ジオガイドの充実やジオツアーの誘致などを行い、観光客の増加につなげます。

なお、12月12日には、鳥取豊岡宮津自動車道の余部道路が開通予定であり、各地域のジオサイトがより巡りやすくなります。

○豊岡市中心市街地活性化基本計画策定

「豊岡市中心市街地活性化

基本計画策定委員会」では、市民などの意識調査結果を反映し、年内に目指すべき将来像をまとめます。今後発足予定の「中心市街地活性化協議会」の提案を踏まえ、来年度に計画策定する予定です。

○有害鳥獣駆除対策

県では、淡路島を除く県内地域のシカの推定生息数を約14万頭に改めました。今年度から捕獲目標頭数を年間3万頭に増やし、新たにシカ緊急捕獲拡大事業（狩猟期間中の捕獲に対して一定の報償費を交付）を導入しました。

市は、県の制度を補完し、独自の報償費制度を設けました。また、イノシシは、今年度から猟期が1カ月延長され、3月15日までとされています。

なお、クマの市内での目撃痕跡情報は500件を超えています。今後も情報提供に努めます。

○北近畿豊岡自動車道の用地取得

12月には地権者説明会が開かれ、随時地権者との個別交渉が行われる予定です。

市は、早期に道路建設工事に着手できるように用地取得に

協力し、来年度予算に残りの用地国債が全額盛り込まれるよう働きかけていきます。併せて、全線早期完成を目指し、同自動車道の必要性を強く訴えていきます。

○豊岡市道路整備計画

緊急度、整備効果、過疎対策などを踏まえ、今後10年間を計画期間とした道路整備計画を今年度内に策定します。

なお、道路の維持補修は、この計画とは別に必要に応じて行います。

○地域主体の公共交通支援パイロット事業

出石町奥山地域で、今月8日から運行を開始しました。約半年のパイロット事業期間内に検証を行い、一定の利用があり、運行および管理業務を支障なく地元が受託できることが確認できれば、本格実施とし、来年度も継続します。

なお、イナカー奥山線の和屋・奥山間は、今年度末で廃止します。

○中山間地域定住促進事業

昨年10月に空き家バンク制度を始めて以来、4件の登録物件への移住が実現し、1件が交渉中で、登録物件以外の

契約も4件まとまっています。

この動きを加速するため、移住者が市内の過疎地および辺地集落の空き家改修を行う場合に改修費を助成します。助成は対象経費の4分の3以内、上限100万円です。

■未来を拓く人を育むまち

○放課後児童クラブの拡充

現在、23小学校区で27クラブを開設していますが、新たに来年度から、奈佐小学校区、中竹野小学校区に開設します。

○学校給食施設のあり方計画

11月に豊岡市学校給食施設のあり方計画をまとめました。主な内容は、①学校給食施設は、竹野施設を今年度末で廃止し、豊岡施設に統合②出石・但東を管轄する新しい施設を平成25年9月稼動を目的に出石に建設し、完成と同時に従来の但東施設・出石施設を廃止③平成25年9月稼動を目的に豊岡施設に炊飯施設を増設④合わせて、各施設規模に応じた管轄校の変更、です。これらにより、平成25年9月には豊岡、日高、出石の3施設となります。

■人生を楽しむ

お互いを支え合うまち

○第29回全国シニアソフトボール 豊岡大会の開催

第29回全国シニアソフトボール豊岡大会が、来年5月に神鍋高原を会場に開催されることが決まりました。全国から約70チーム1750人の参加が見込まれています。

■市政の運営

○職員給与の改定

市では、国の取扱いに準拠し、行政職給料月額を引き下げるとともに、行政職給料表の一定級以上で55歳を超える職員の給料月額を1・5パーセントを減額、期末・勤勉手当を年間で0・2月分減額することなどの関係条例改正案、特別職の期末手当の支給割合を年間0・2月分減ずる関係条例改正案を今議会に提出しています。議員の期末手当および教育長の期末・勤勉手当も同じ減額となります。

○後期基本計画の策定

平成19年3月に策定した豊岡市総合計画の前期基本計画の計画期間が来年度で終了します。そこで、平成24年度から平成28年度までの5カ年の後期基本計画を策定する必要があります。来年1月に「まちづ

くり市民アンケート」を実施します。

また、職員による「豊岡市総合計画後期基本計画検討委員会」を設置し、アンケートの結果を尊重しつつ、計画策定に必要な調査、研究、素案の作成などに取り組みます。

○過疎地域自立促進計画

過疎地域自立促進特別措置法が6年間延長されました。これを受け、市でも過疎地域自立促進計画を策定しました。

また、住民による検討委員会を地域ごとに立ち上げ、過疎地域戦略プロジェクトを検討していただいています。

○過疎地プロモーション映像制作

大交流を実現するために、多くの人に対し、豊岡がどんな所かを知らせ、訪れてみたいと思っただくことが重要です。そのために、城崎、竹野、但東における過疎地域固有の自然や風土などの魅力を外部に発信するプロモーション映像を制作します。

○新庁舎建設事業

実施設計がほぼ完了し、11月中に積算を終える予定で進めます。年内に入札の諸手続きを進

め、今年度内に工事請負契約を締結したいと考えています。

また、議会事務局、政策調整部、総務部、市民生活部などは、来年1月から仮庁舎で業務を行います。現議場での市議会は今議会が最後です。

○水道料金の見直し

9月に答申を受けた水道料金のあり方については、議会、市民説明会などの意見を踏まえ、経費の圧縮を行い、答申より改定率を引き下げ、平均改定率23・2パーセントの案とし、今議会に提出しています。

具体的な金額は、月10立方メートルを使う標準的な単身または2人家庭の場合、月額168円、14・5パーセントの増、月20立方メートルを使う標準的な4人家庭の場合、月額430円、19・5パーセントの増となります。

○コストを意識した行動指針策定

市内部に策定検討委員会を組織し検討してきましたが、11月中に策定できる予定です。必要な費用を掛けるのであればより大きな成果を生み出す、同じ成果を出すのであ

ればより小さい費用で成し遂げる。これが市役所の組織文化になるよう努めます。

○受益者負担の適正化

使用料については、同種のもの、重複するものなどを整理し、11グループに再編した上で原価計算結果を基に見直しを行い、市営駐車場使用料、豊岡斎場使用料の2件の料金を改定することとしました。

スポーツ施設、公民館や健康福祉センターなどの施設、幼稚園保育料は、引き続き協議・調整を行います。

手数料、雑収入は、現行が適正な水準と評価しました。

○円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策

「地域活性化、社会資本整備、中小企業対策等」として、インフラ整備を実施するとともに、地方交付税の増額や学校などの耐震化の推進のほか、きめ細かな交付金や住民生活に光を注ぐ交付金の二つの内容の地域活性化交付金が創設されることになりました。現在、市では国の予算成立後速やかに実行できるよう情報収集に努め、施策を取りまとめています。

※市ホームページに「市長総括説明」の全文を掲載しています。